

くらしと仕事に関する 外国籍市民調査報告書

多文化社会における社会階層研究会 編

0. はじめに

本調査は、日本に暮らす外国籍の方がどのような生活状況にあるのか、また、日本社会に対してどのような考えをもっておられるのかを把握することを目的としています。これにより、国籍によって生じる不利益が存在するのか、存在するとしたら、それはどのように解消可能なのかを検証したいと考えております。本報告書では、調査にご協力いただいた皆様に、主な項目についての回答の集計をお伝えすることを目的に作成したものであり、今後詳細な分析を進めていきます。

1. 本調査について

本調査は外国籍の方がほとんどお住いではない地域を除き、日本全国にお住いの20歳以上79歳以下の外国籍の皆様を対象としています。無作為に抽出された60市区町村の5000名の皆様にご協力をお願いいたしました。1123名の方から回答をいただき、転居先が不明の方などを除いた回収率は23.8%でした。以下、文中のn=の数値は、関連する質問での回答者数を示しています。また、「出身地域」は国籍にもとづいて定義しています。

ご協力いただいた皆様のうち、男性は42.5%、女性は52.8%（性別が無回答の方が4.7%）で、男性の割合がやや低くなっています。年齢については20代、30代の方の割合が高く、同じ年齢層の日本全国にお住いの外国籍の方（2015年の国勢調査）と比べますと、やや30代の方の割合が高く、20代の方の割合が低い分布です（図1-1）。

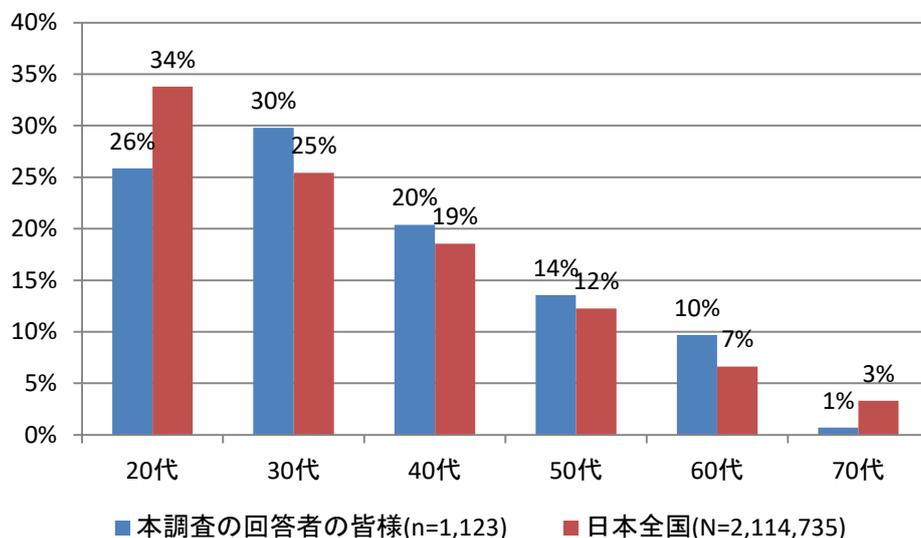


図1-1 本調査の回答者の皆様と日本全国にお住いの外国籍の方の年齢分布の比較

滞日年数の平均値は、日本でお生まれになった方を除くと11.1年です。分布をみると、1年以下の方が11%、2年～5年の方が19%と、5年以下の方が3割を占める一方、21年以上日本にお住いの方も15%いらっしゃいます。日本でお生まれになった方は14%でした。

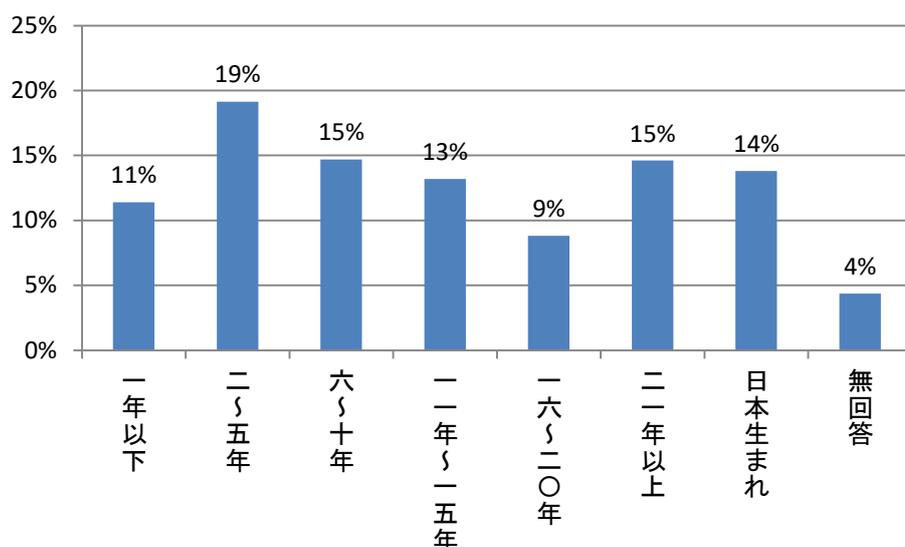


図 1-2 滞日年数の分布 (n = 1,123)

国籍の分布をみると、中国籍の方が 34%、韓国・朝鮮籍の方が 18%、次いでブラジル籍、フィリピン籍の方が 11%と多くご回答いただいています。これらの 4 つの国籍以外の方はそれぞれ 5%を下回っています。日本全国にお住いの外国籍の方(2017 年の在留外国人統計)と比較しますと、中国の方やブラジルの方の回答が多く、ベトナムの方や、ここに挙げた以外の国の国籍の方からのご回答がやや少なくなっています。本調査は全部で 52 の国と地域の方にご回答いただきました。

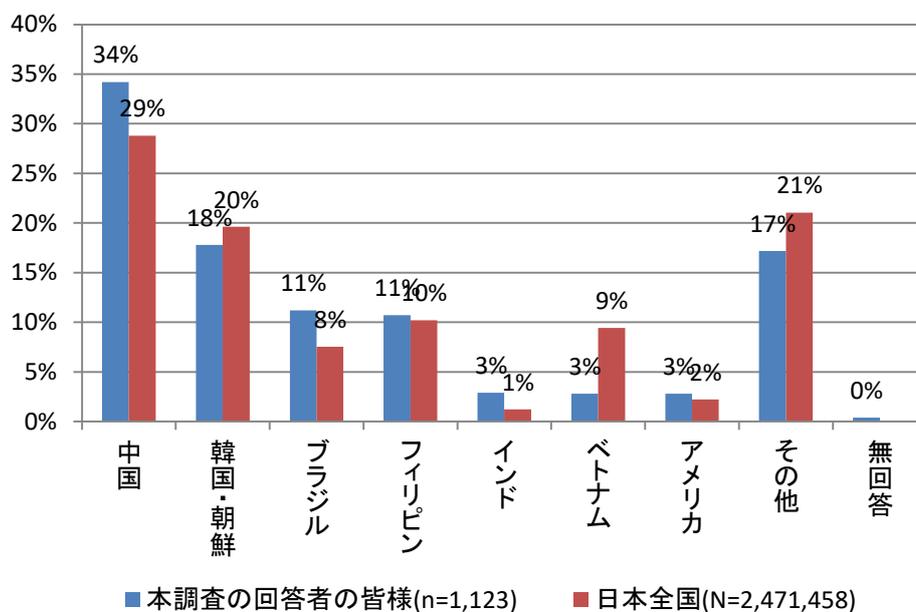


図 1-3 本調査の回答者の皆様と日本全国にお住いの外国籍の方の国籍分布の比較

2. 保険、年金への加入について

本調査では、健康保険や年金への加入状況をおうかがいしました。図 2-1 をみると、健康保険はほとんどの方が加入しておられますが、年金については 20%の方が未加入、9%の方が「わからない」と回答しておられます。在留資格別に見た場合、特別永住者や永住者の方でも 10%程度の方が、日本人の配偶者等の方では 20%程度の方が、年金に未加入となっていました。日本の国民年金制度は、必要な加入期間が長いことなどが問題として指摘されており、じゅうぶんに加入が進んでいない状況がこの結果からもわかります。

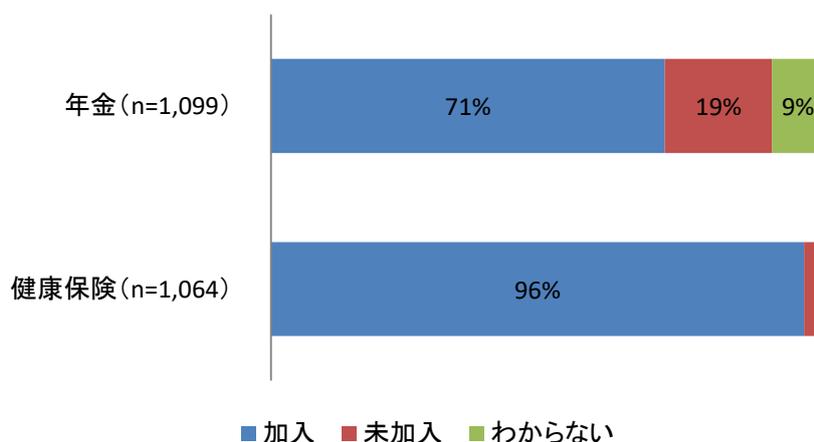


図 2-1 年金・健康保険への加入の有無

3. 現在のお仕事について

現在のお仕事について、出身地域別に回答を集計しました。なお、本調査の回答者のうち、仕事をしている方は 785 名 (69.9%)、失業中の方は 65 名 (5.8%)、無職の方は 87 名 (7.7%)、学生の方は 174 名 (15.5%) でした。お仕事の状況について、出身地域別にみたものを図 3-1 に示しました。ブラジル・ベルー出身の方は 90%以上、ヨーロッパ・アメリカ出身の方、ベトナム出身の方は 80%以上が働いておられます。一方、中国出身の方では 29%の方が学生です。失業されている方の割合はフィリピン出身の方でやや高くなっています。

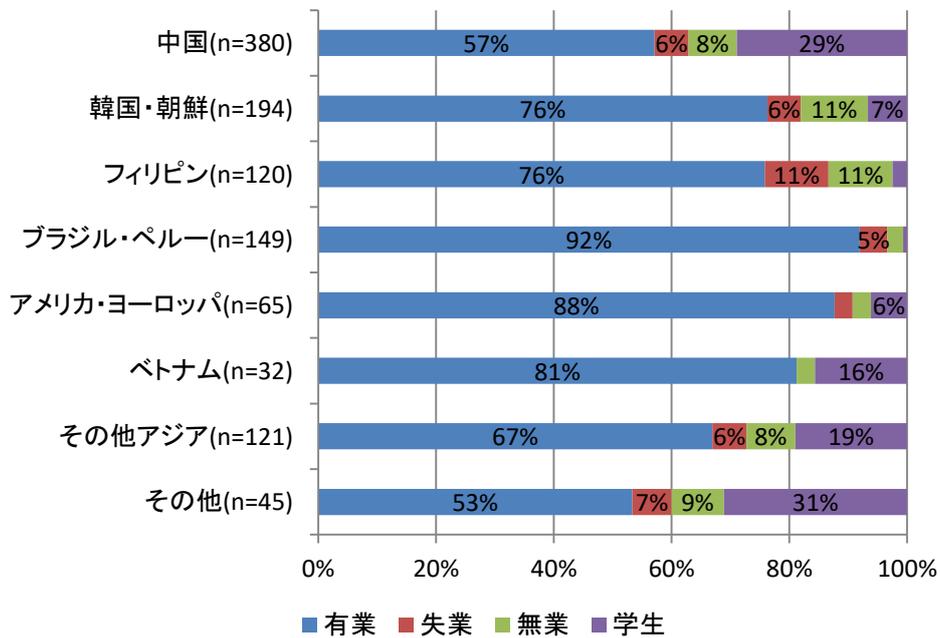


図 3-1 就業状態（出身地域別）

次に、従業上の地位についての結果を以下の図 3-2 に示しました。

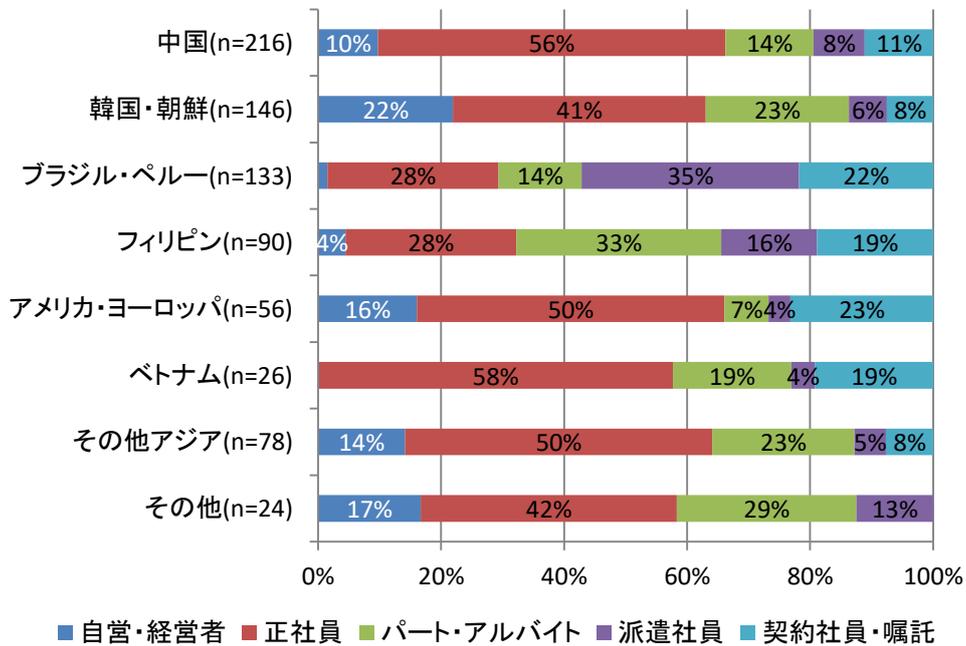


図 3-2 現職の従業上の地位（出身地域別）

出身地域別の正社員比率に注目すると、ベトナム出身の方が最も多く（58%）、それに中国出身の方の 57%、アメリカ・ヨーロッパ出身の方の 50%が続きます。最も正社員比率が

低いのはブラジル・ペルー出身の方で 28%でした。出身地域別の特徴を簡単にみておくと、韓国・朝鮮出身の方では自営・経営者の比率が多いことがわかります。また、ブラジル・ペルー出身の方では派遣社員や契約社員・嘱託が多く、アメリカ・ヨーロッパ出身の方では契約社員・嘱託の比率が高いことがわかりました。

次に、現在の雇用契約の期間に期限があるかどうかを尋ねました。雇用されている方に限定して出身地域別の傾向を示したのが、下記の図です。雇用契約期間の有無および期間の長さも、出身地域によって異なっていることがわかります。雇用契約期間の期限がない方は、韓国・朝鮮出身の方では 84%、その他アジア出身の方では 67%、その他の方では 60%です。一方、ブラジル・ペルー出身の方やフィリピン出身の方、ベトナム出身の方では雇用契約期間に期限がある方が多いことがわかります。特にブラジル・ペルー出身の方は、「6ヶ月未満」という短い雇用契約の方が多（37%）ことが特徴的です。アメリカやヨーロッパ出身の方は雇用契約期間に期限がある方が多いですが、「6ヶ月～1年未満」という短い雇用契約の方はおられず、「6ヶ月～1年未満」や「1年～3年未満」という方が多いことがわかりました。

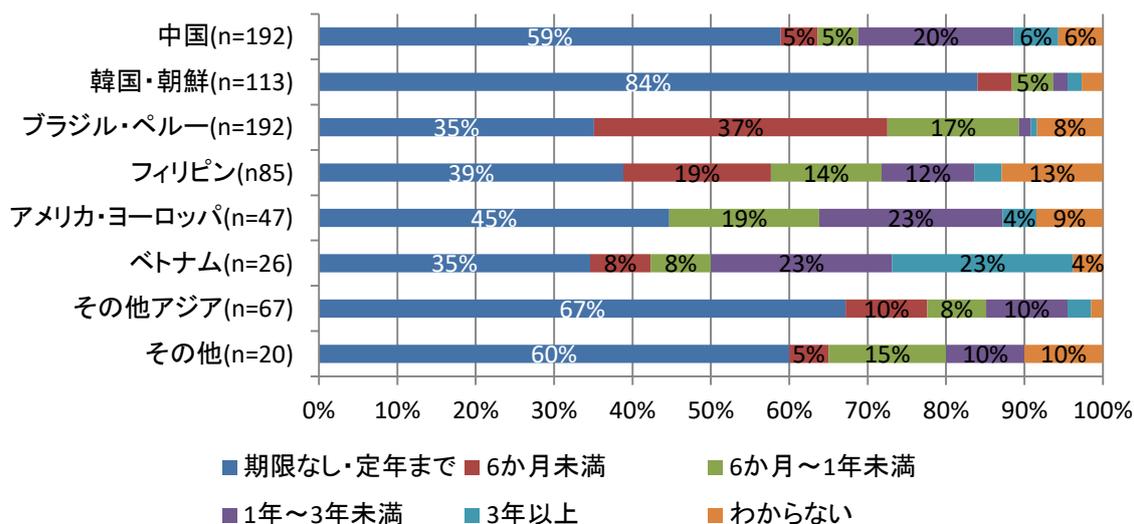


図 3-2 現職の雇用契約期間の有無（雇用者のみ、出身地域別）

本調査では、色々な観点から仕事の特徴について尋ねています。次のグラフは、出身地域別に「勤め先で自分の能力を發揮できるか」という質問に対する回答をまとめたものです（図 3-3）。「1 とてもあてはまる」から「5 まったくあてはまらない」まで 5 段階で答えてもらいました。「能力を發揮できる」と回答した方は韓国・朝鮮出身の方やその他アジア出身の方で多くなっています。一方、ブラジル・ペルー出身の方やアメリカ・ヨーロッパ出身の方は「能力を發揮できる」と感じている方は相対的に少ないということがわかりました。

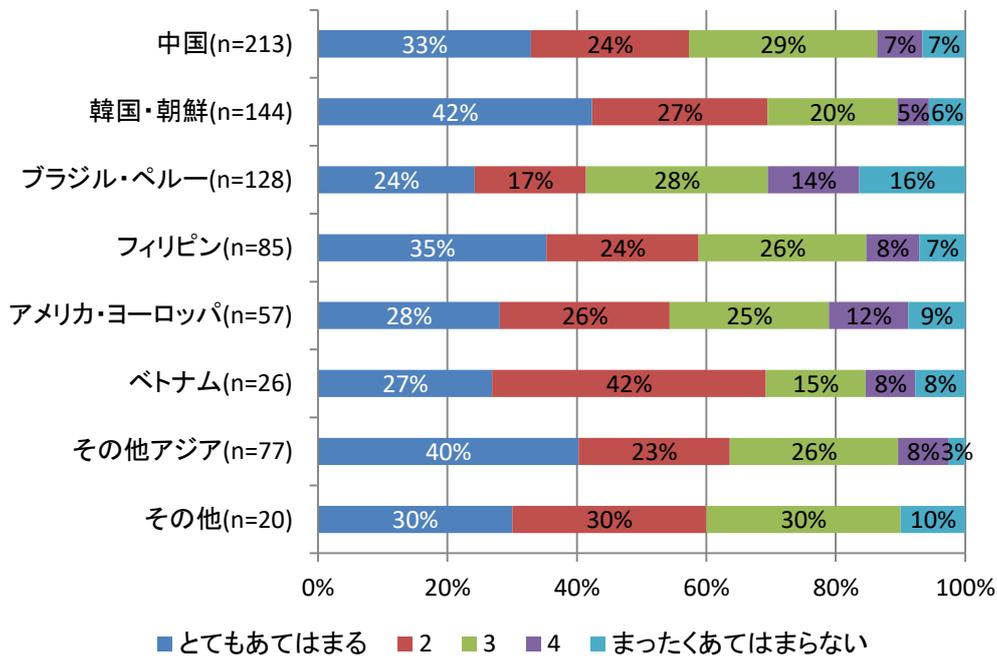


図 3-3 「自分の能力が発揮できる」への回答比率（出身地域別）

4. 日本で初めてついたお仕事について

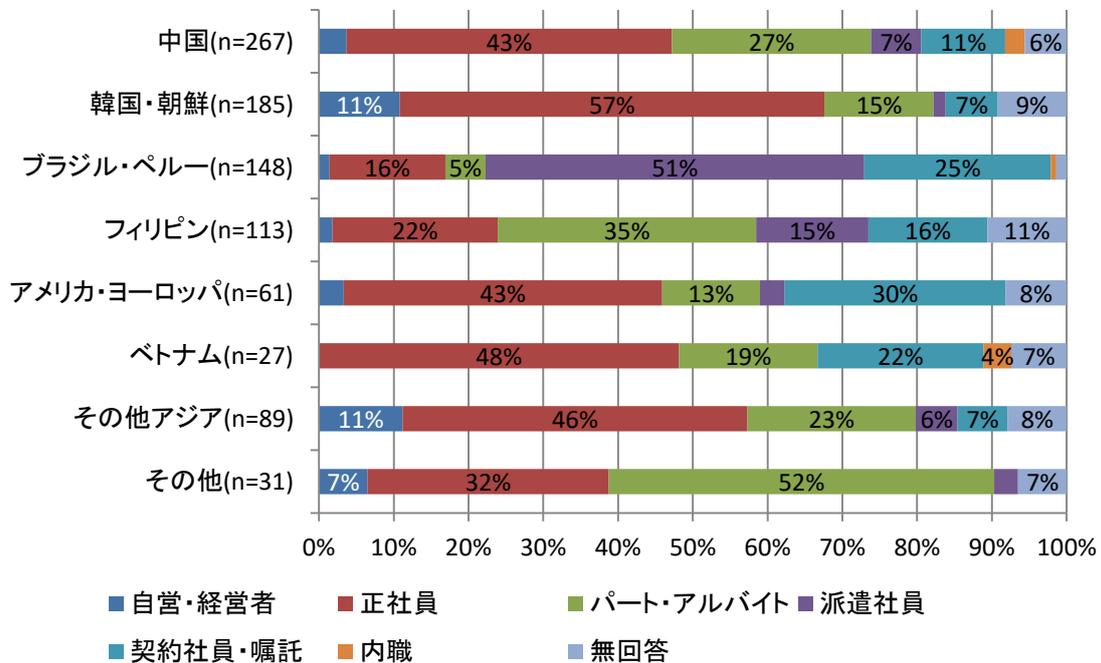


図 4-1 日本での初職の従業上の地位（出身地域別）

日本で初めてついた仕事にかんする、いくつかの設問について、出身地域別に集計を行

いました。はじめに、従業上の地位の結果について見てみます。各出身地域の正社員の比率の違いに注目すると、韓国・朝鮮出身の方が最も多く 57%、次いでベトナム出身の方が 48%でした。中国、その他アジア、アメリカ・ヨーロッパ出身の方については、正社員の比率は 4 割台にまで減少しています。フィリピン出身の方とブラジル・ペルー出身の方については正社員の比率はさらに低下し、フィリピン出身の方が 22%、ブラジル・ペルー出身の方が 16%でした。次に、非正規雇用については、フィリピン出身の方がパートの比率が最も高く 35%であり、ついで中国出身の方の 27%、その他アジア出身の方の 23%でした。派遣についてはブラジル・ペルー出身の方が最も多く 51%、ついでフィリピン出身の方が 15%でした。その他の出身地域については、派遣で働く人たちは 1 割以下でした。契約・嘱託の形で働く人たちについては、アメリカ・ヨーロッパ出身の方が最も多く 30%、ブラジル・ペルー出身の方の 25%でした。このように、全体的に正規雇用の比率が低く、非正規雇用の割合が高いことが分かります。その反面、どのタイプの非正規雇用の割合が高いかは、出身地域によって大きく異なっていました。

次に、日本で初めてついた仕事の内容について、出身地域別に集計を行いました。専門職・管理職が最も多いのは、アメリカ・ヨーロッパ出身の方の 39%、ついでその他アジアの方の 38%です。中国、韓国・朝鮮、ベトナム出身の方については、専門・管理の割合はそれぞれ 2 割程度です。専門職・管理職の内訳に注目すると、今回の調査ではその大半が専門職であり、管理職の方はごくわずかでした。フィリピン出身の方とブラジル・ペルー出身の方については、専門・管理の割合は極端に少なく、フィリピン出身の方では 5%、ブラジル・ペルー出身の方ではわずかに 3%でした。

他方で、生産工程労務職、保安職、農業からなるマニュアル職の分布に注目すると、ブラジル・ペルー出身の方が最も多く 57%、フィリピン出身の方が 45%、ベトナム出身の方が 30%でした。中国、韓国・朝鮮、その他アジア出身の方についてはそれぞれ 1 割台がマニュアル職の労働に従事していました。

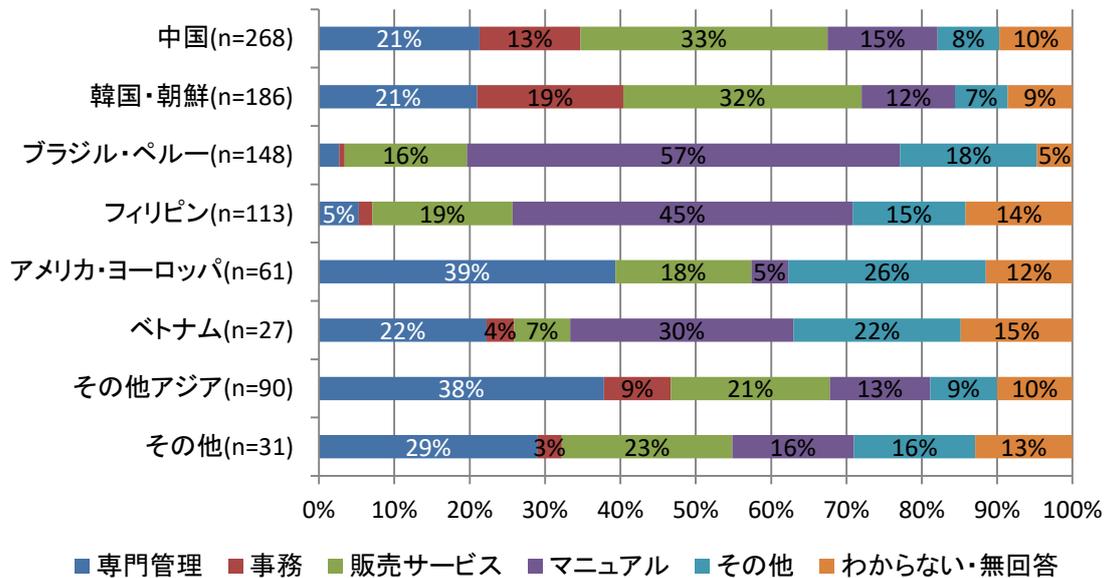


図 4-2 日本での初職の職種（出身地域別）

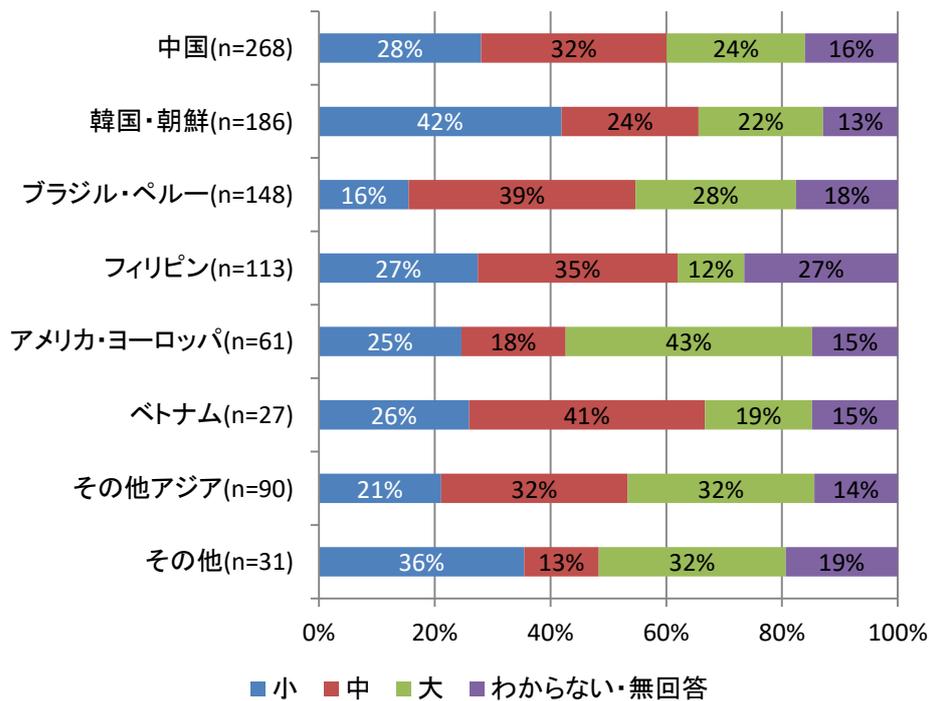


図 4-3 日本での初職の企業規模（出身地域別）

最後に、日本での初職の企業規模について見てみました。出身地域別にみると、大企業勤務者が相対的に多いグループは、アメリカ・ヨーロッパ出身の方でした。他方で、フィリピンやベトナム出身の方については、相対的に大企業で働く人が少ない傾向がみられま

した。

5. これまでに受けた学校教育について

調査では、これまでに日本あるいは日本以外の国で受けた教育についてうかがいました。日本の学校に通ったことがある方は全体の約 50%でした。日本の学校に通っていない方はほとんどは出身国など、日本以外の国の学校に通っています。通った学校の種類について、日本で通ったか否かに関わらず集計をしたところ、大学が 39%、大学院が 20%となり、回答者のみなさまのうち半数以上が短大以上の高等教育を受けていることが分かりました。

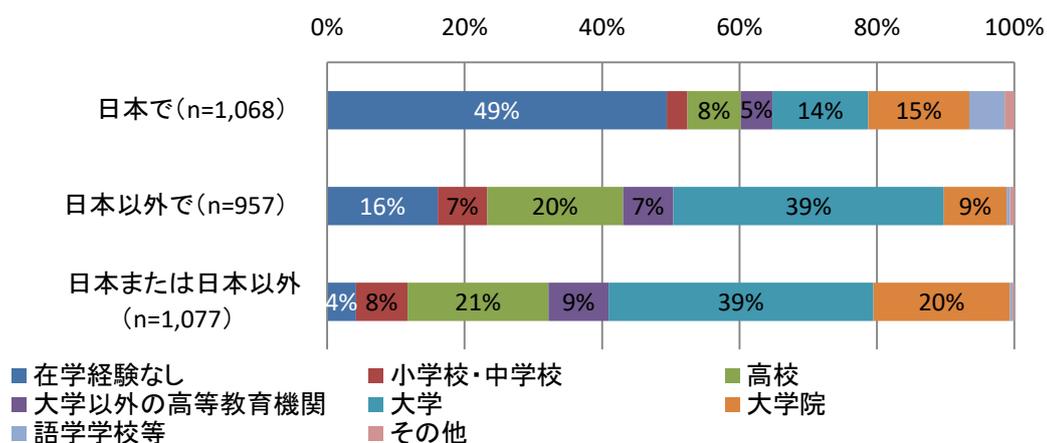


図 5-1 最終学歴

一方、受けた教育の分布は出身地域によって異なるようです。高等教育を受けた方の割合が大きいのはアメリカ・ヨーロッパ、中国出身の回答者の方です。また、韓国・朝鮮、南米、東南アジア出身の方々では、高等教育を受けた方の割合が相対的に低いことも分かりました。受けた教育はその後のお仕事など、生活の多くの側面に影響することが想定されます。高等教育を受けていないことによる不利や、高等教育を受けているにも関わらずその便益が受けられない可能性など、今後明らかにされるべきことが数多くあるといえます。

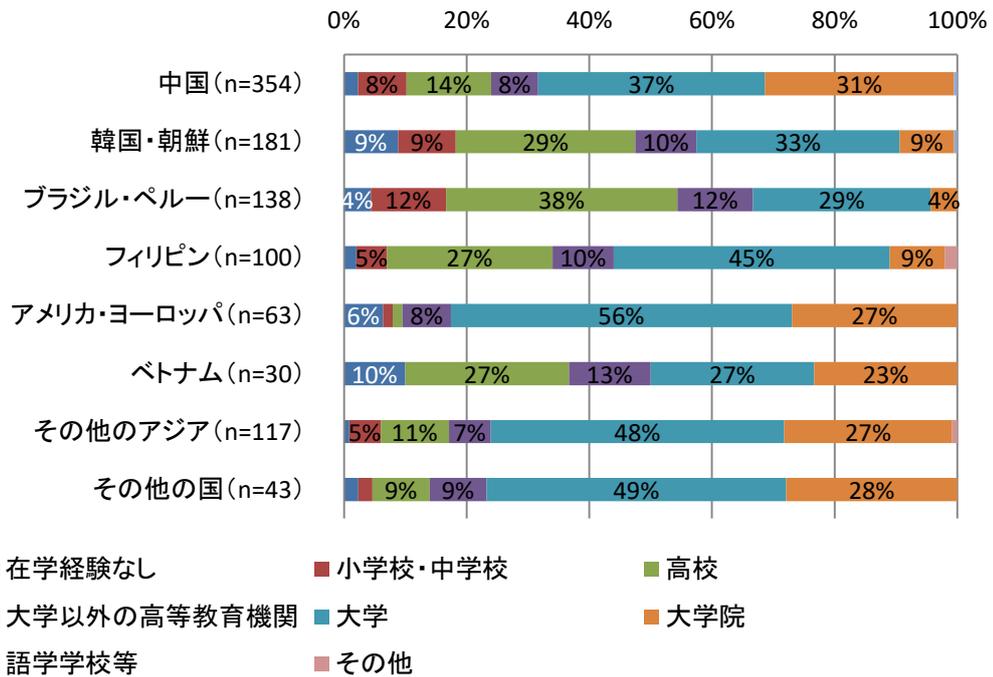


図 5-2 最終学歴 (出身地域別)

6. 日本文化への親しみ

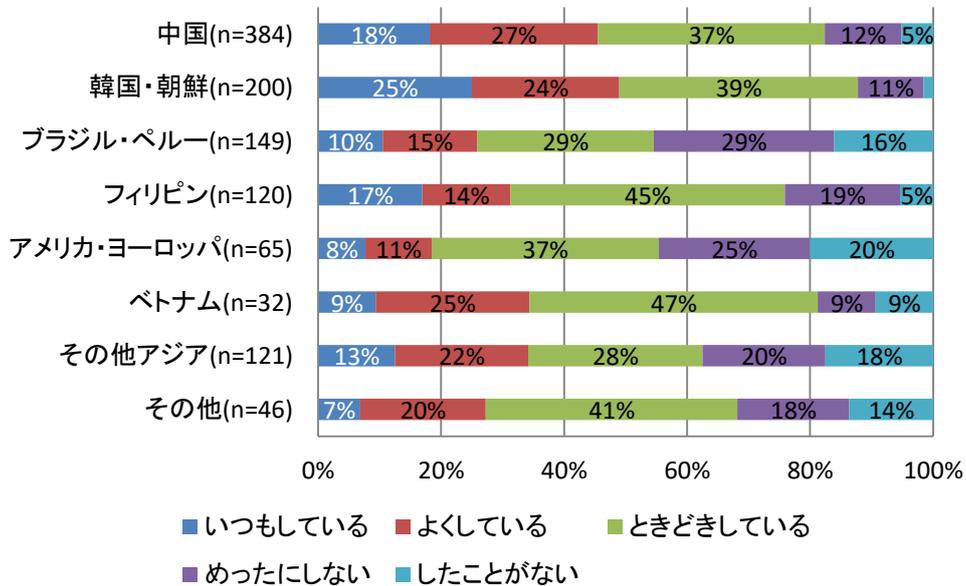


図 6-1 日本の映画やドラマを見る頻度 (出身地域別)

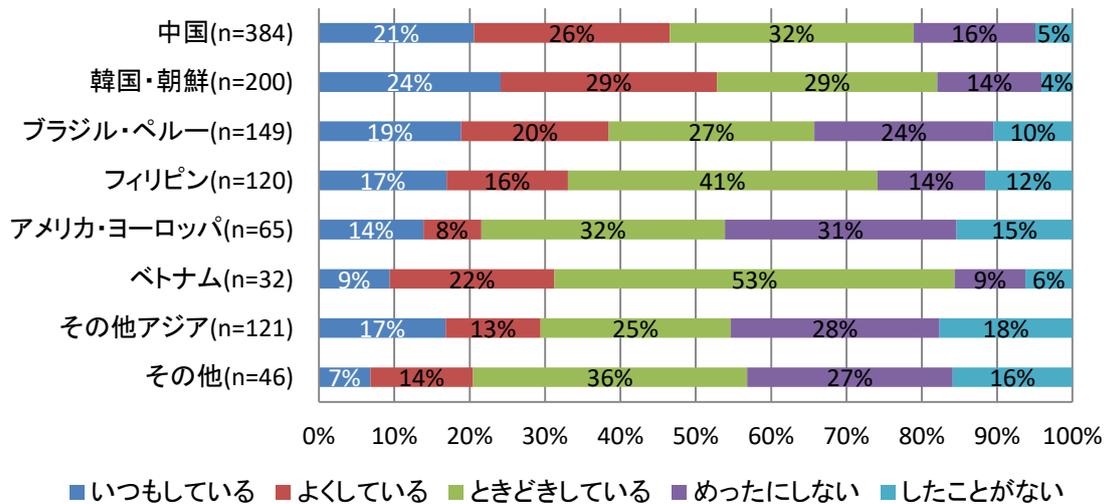


図 6-2 日本の音楽を聞く頻度(出身地域別)

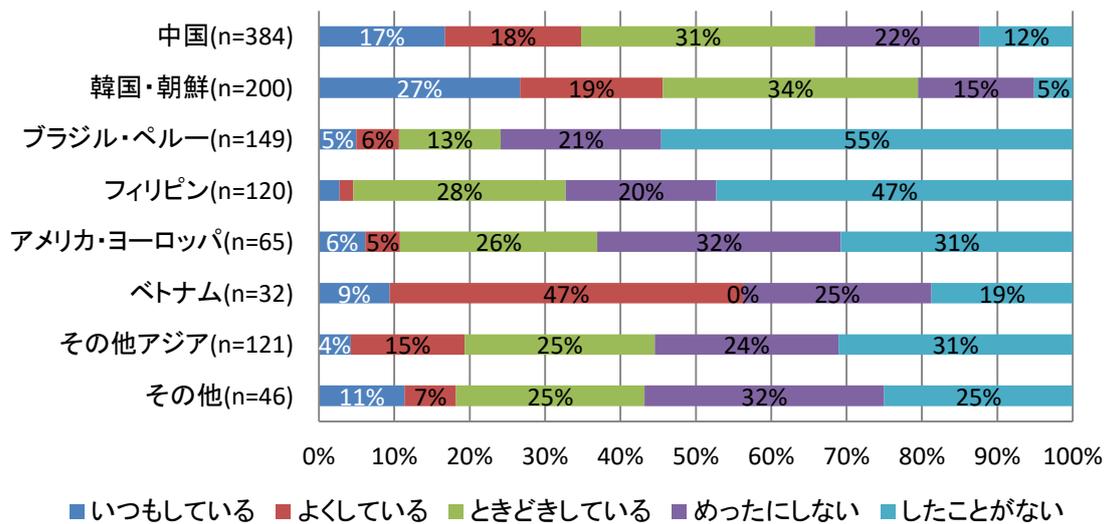


図 6-3 日本の本を読む頻度(出身地域別)

映画やドラマ、音楽、本など日本の文化に触れる頻度について、回答いただきました。図 6-1~6-3 では、結果を出身国別にまとめました。中国、韓国・朝鮮、ベトナム出身の方々がより積極的に日本の文化に触れておられます。

日本の映画やドラマを見たことがない人や、めったに見ない人の割合は、中国出身の方では 17%、韓国・朝鮮出身の方では 13%、ベトナム出身の方では 18% です。これに対して、フィリピン出身の方の 24%、ブラジル・ペルー出身の方の 45%、アメリカ・ヨーロッパ出身の方の 45%、その他国の出身の方の 32%、その他アジア国の出身の方の 38%が、日本の映画やドラマを見たことがない、または、めったに見ないと回答しておられます。音楽についても似た傾向が見られました。日本の本を読む頻度では、中国、韓国・朝鮮出

身の方とその他の国出身の方の差が大きくなっています。

7. 生活についての意識や健康状態

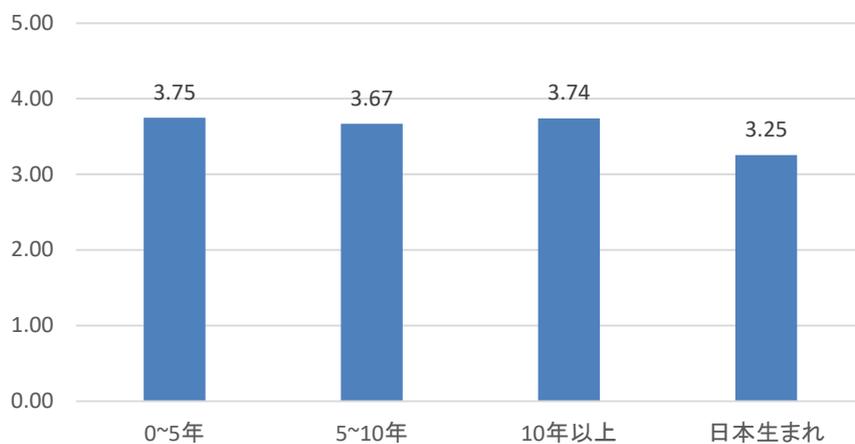


図 7-1 滞在年数別生活満足度の平均値

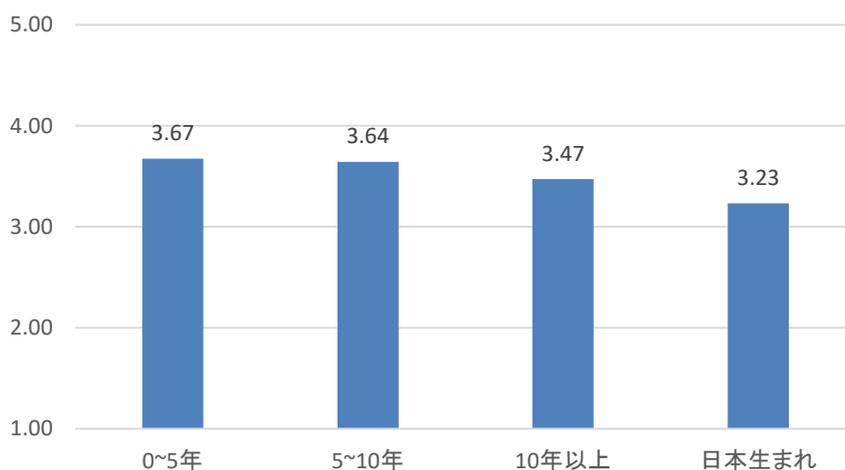


図 7-2 滞在年数別健康状態の平均値

本調査では、生活に対する満足度と健康状態をうかがいました。図 7-1、7-2 では、高い値が良い状態を示すように得点化したうえで、生活に対する満足度と健康状態について、滞在年数ごとに平均値を求めたものを示しています。平均値はちょうど真ん中の 3 に近い値ですが、滞在年数別に見た場合、日本生まれの方々の生活への満足度や健康状態の平均値がやや低くなっています。

8. 被差別経験について

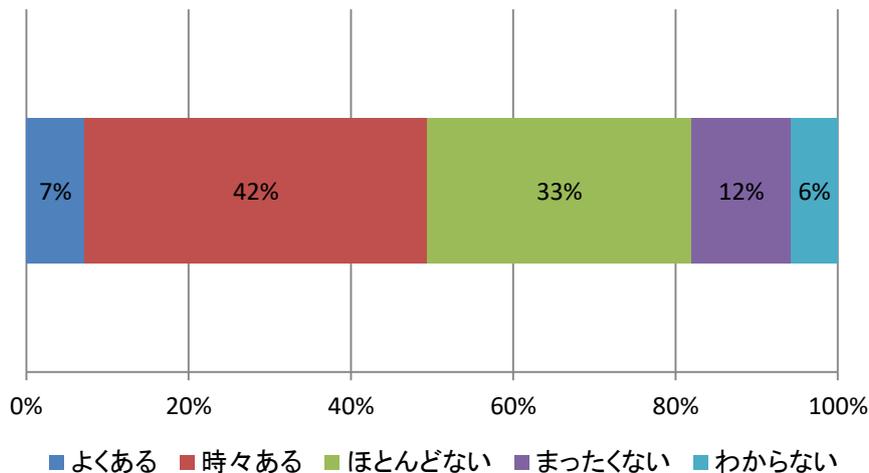


図 8-1 嫌な思いをした経験

皆様には、外国人だという理由で嫌な経験をしたかどうか回答していただきました。結果、図 8-1 が示すように、嫌な経験をしたことがある（「よくある」と「時々ある」）方とほぼしたことがない（「ほとんどない」「まったくない」）方がそれぞれほぼ半数ずつという結果となりました。このうち、嫌な経験をしたことがある方には、さらにどういった場面でそれらの経験をしたのかお聞きしました。図 8-2 に結果を示しています。

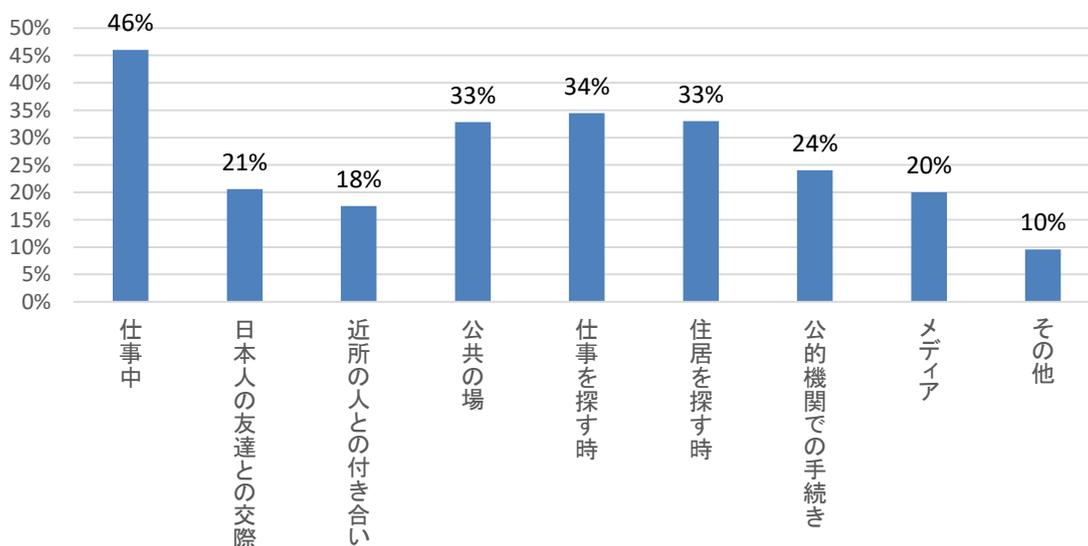


図 8-2 嫌な経験をした場面

注：複数回答、いやな経験をしたことが「よくある」または「時々ある」人の中での割合

図 8-2 から、仕事中に嫌な経験をする方が最も多いことがわかります。仕事や住居を探す際にも多く経験しており、選ばれる立場である時に外国人であることが不利に働くといえ

ます。また、買い物中や電車の中など、公共の場で嫌な思いをされている方も多く、日常の場面において差別を受けている可能性が示されました。

次に、「日本社会の一員として認められている」かどうかについてお聞きした結果を、出身地域別に示しました。図 7-3 から、韓国・朝鮮出身の方は 50%以上が「日本社会に認められている」と思っている（「そう思う」と「ややそう思う」の合算）ことがわかります。一方で、ブラジル・ペルー出身の方と中国出身の方は 25%前後の方が認められていると思っています。この割合は分析対象者中で最も少ないのですが、両者の間で回答の傾向は大きく異なります。中国出身の方は半数近くが「どちらともいえない」に回答していますが、ブラジル・ペルー出身の方は半数近くが認められていないと思っています（「あまりそう思わない」「そう思わない」の合算）。

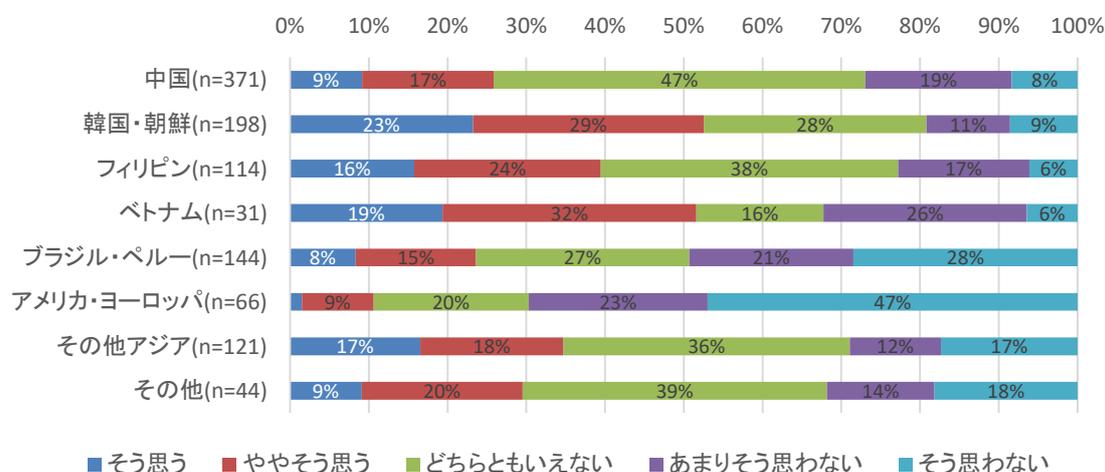


図 8-3 「日本社会の一員として認められている」（出身地域別）

9. 今後の日本への滞在予定について

今後の日本滞在の予定について国・地域別に集計を行いました（無回答の方を除く）。全体では「すぐに／数年後には日本から出たい」、「将来は日本から出たい」と回答された方があわせて 20.0%、「日本に永住したい」と回答された方が 46.4%、「まだ決めていない」「その他」と回答された方があわせて 33.6%でした。出身地域別でみると韓国・朝鮮出身の方が突出して「日本に永住したい」と回答されています。これは調査にご協力くださった大多数の韓国・朝鮮出身の方が永住者または特別永住者として日本で生まれ、既に日本で長期間暮らしておられることが関係しているでしょう。

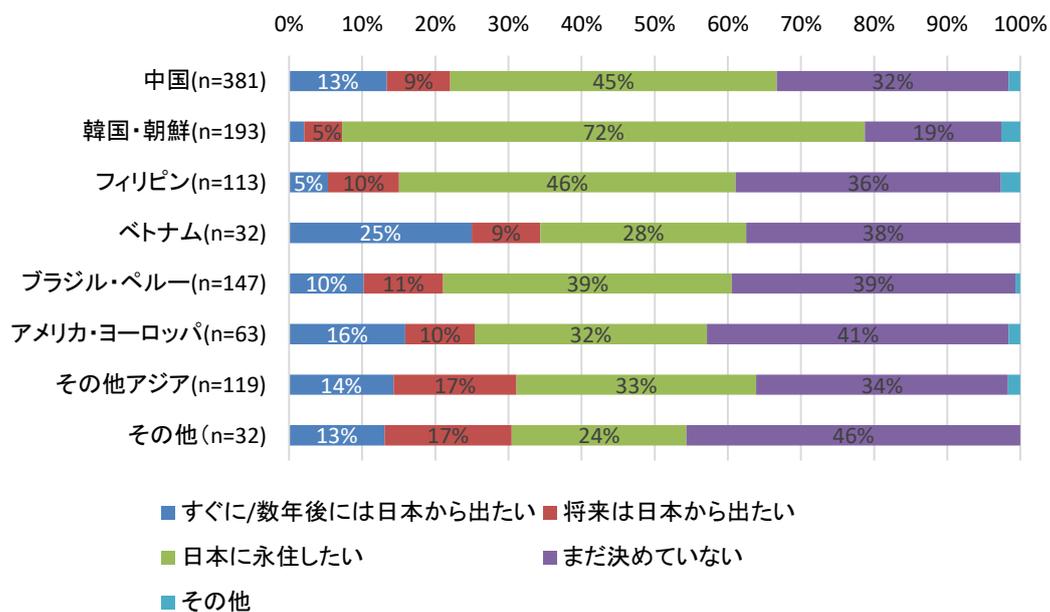


図 9-1 今後の日本滞在の予定（出身地域別）

10. 日本国籍の取得について

「あなたは日本国籍を取得したいと思いますか？」という質問に関する集計を行いました（無回答の方を除く）。全体でみると「そう思う」が 21.2%、「ややそう思う」が 20.8%、「あまりそう思わない」が 33.4%、「そう思わない」が 24.5%でした。出身地域別でみるとフィリピン出身の方で「そう思う」、「ややそう思う」と回答された方があわせて 62%おられ、他の出身地域の方に比べてやや多いことがわかります。逆に、欧米地域出身で「そう思う」、「ややそう思う」と回答された方はあわせて 14.3%で、他の出身地域の方に比べて少ないことがわかります。

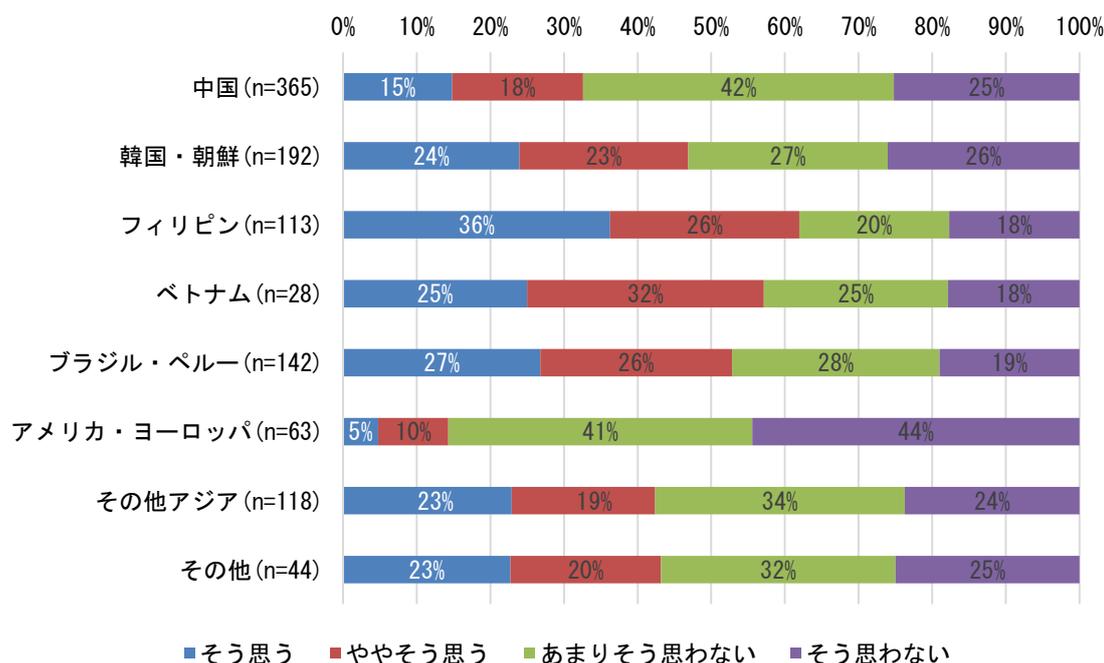


図 10-1 日本国籍を取得したいと思う（出身地域別）

11. おわりに

上記の分析結果を含め、今後さらに分析をすすめ、外国籍の皆様の生活状況に影響を与えている様々な要因を探っていきます。分析を通じて、外国籍によって生じる障壁の存在が示された場合には、それを解消する方策を考えていきたいと思えます。分析の結果は、プレスリリースや学術論文、書籍の形で発表してまいります。

最後になりましたが、ご回答いただいた皆様のご協力があったからこそ、本調査を行うことができました。お忙しい中、お時間を割いてご回答くださいましたこと、心よりお礼申し上げます。